

合志市の男女共同参画

あなたの意識は? ～

「男女共同参画に関する市民意識調査」結果報告

問い合わせ先
 総務課 総務・男女共同参画班
 ☎(248)1112

本市では、昨年8月に「男女共同参画に関する市民意識調査」を市民3,000人を対象に実施し、967通の回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

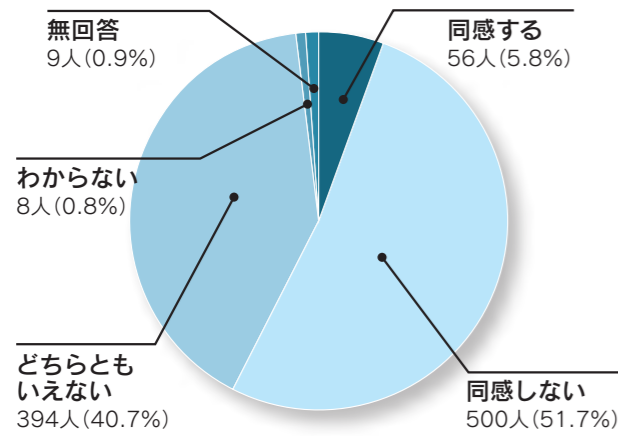
市民の皆さんは「男女共同参画」について、どのような意識を持っているのでしょうか? 調査結果の一部をお知らせします。

今後、これらの結果を十分検討しながら、本市の男女共同参画の取り組みに活用していきます。

「男女共同参画社会とは」

性別に関わりなく、お互いを尊重し、責任を分かち合いながら、地域や家庭、職場などの場で対等に参画し、その個性と能力を十分に発揮できる社会のことです。

問1 「男は仕事、女は家庭」など性別で役割を固定した考え

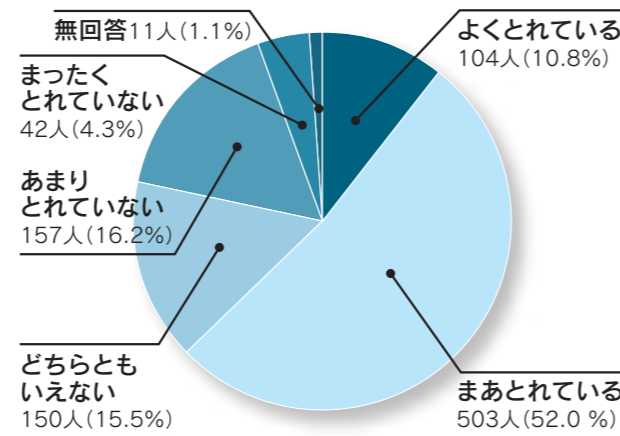


問1では、「性別役割分担意識」について聞いています。

「同感しない」が約半数をしめていますが、「どちらともいえない」も4割を超えています。「できる人が、できる時に、できるだけ」を実践できれば、「役割を固定した考え」から起こる課題は解決していくのではないのでしょうか。

※問3以降の調査結果では、複数回答有りのため合計が967人や100%にならないものもあります。

問2 仕事と生活のバランス



問2では、「ワークライフバランス」について聞いています。「よくとれている」「まあとれている」を合わせると6割を超えていますが、男女共同参画社会が推進されれば、性別に関係なく、お互いが責任を分かち合い、生活スタイルに合った仕事・家事・育児の時間の使い方ができるのではないのでしょうか。

問3 出生率の低下の原因

1	子どもを育てるには経済的に負担が大きいから	552人	57.1%
2	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	504人	52.1%
3	仕事と子育ての両立が難しいから	424人	43.8%
4	子育てを支援する制度や環境が十分ではないから	335人	34.6%
5	収入が少ないから	252人	26.1%
6	子どもより自分自身や夫婦の生活を重視する考えが強くなっている	231人	23.9%
7	子どもを育てるには肉体的、精神的負担が大きいから	163人	16.9%
8	出産や育児に対する男性(夫)の理解や協力が足りないから	86人	8.9%
9	少ない子どもに十分な教育を受けさせた方がよいから	57人	5.9%
10	子育てに自信がないから	29人	3.0%
11	住宅事情が悪いから	14人	1.4%
12	その他	35人	3.6%
13	わからない	15人	1.6%

問3では、出生率低下の原因を聞いています。一番多い回答は経済的負担で、現在の経済状況を反映した結果となりました。第3位の「仕事と子育ての両立」、第4位の「子育て支援の環境」については、男女共同参画社会が推進されれば、一部は改善される可能性があるのではないのでしょうか。

例えば、子育て中の人は子どもが病気などのときは、すぐに帰ることができる体制を職場でつくることや、出産・育児のときは仕事を休むことができ、希望すればすぐに復帰できる環境を整えることが、「子どもを生んでも大丈夫」という意識につながると考えられます。

そのような体制をつくるには、企業努力も必要ですが、働く人たちがお互いを尊重し、責任を分かち合うことも、環境改善の一因になるのではないのでしょうか。



子どもたちの笑顔は宝物

◆調査の概要

- ◆調査対象 本市に住む18歳以上の市民3,000人 (住民基本台帳に基づく無作為抽出)
- ◆回収数 967通 (男383人、女576人、不明8人) 回収率32.2%
- ◆調査期間 平成22年8月9日～23日
- ◆調査方法 郵送による配付・回収

回答者年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答	計
人数(人)	20	111	158	146	191	238	99	4	967
割合(%)	2.1	11.5	16.3	15.1	19.8	24.6	10.2	0.4	100

◆調査結果の総括

今回の調査結果では、「男は仕事、女は家庭」といった性別で固定した役割分担意識について、それを肯定的にみる人は少ないという結果が出ました。

しかし、実生活では、ほとんどの家事を女性が担当しており、職場や政治、市政参画などさまざまな場面で男性が優遇されていると感じている市民が多く見られました。

また、男女共同参画が推進されていると感じている割合や市政に女性の意見が反映されていると感じている人の割合も2割にとどまっており、男女共同参画の進展がまだ実感されていないのが現実のようです。

そして、現在行なわれている本市の男女共同参画推進の取り組みを、知らない市民が多いことも分かりました。

そんな中、男女共同参画推進の取り組みが必要ないと考えている人はほとんどおらず、今後さらに男女共同参画が推進さ

れることを多くの市民が望んでいる結果が出ました。

ただ、具体的にどのような社会になればよいのか、そのために自分自身が何をすればよいのか具体的なイメージをつかめない人が多いと、「自分の価値観を他人に押し付けない」「家事の分担について考えてみたい」といった自分自身の態度を変革しようとする傾向が見られました。



男性も家事を分担